

WEEKLY SIGNAL

2019年7月26日(金) 1484号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/29(月)	7/30(火)	7/31(水)	8/1(木)	8/2(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 100	トシ	トシ	トシ	△1,000
財政他	+ 3,300	+ 1,000	+ 4,000	△20,000	△83,000
資金需給	+ 3,400	+ 1,000	+ 4,000	△20,000	△84,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行(2年)	国債発行(10年) 税・保険揚げ		
オペ期日	共通担保(全店) △700 CP等買入 △400 社債等買入 △100 国債補充供給 +100				
オペスタート	国債買入 +3,200 共通担保(全店) +700 ETF買入 +800		CP等買入 +2,500		
(日本)	金融政策決定会合(30日まで)	展望レポート公表 黒田総裁、会見 完全失業率(6月) 鉱工業生産指数(6月)		雨宮副総裁、金融経済懇談会で 講演(鹿児島)	金融政策決定会合議事要旨公表 (6月19・20日分) 雨宮副総裁、地元経済有識者と 意見交換(宮崎県) 日銀営業毎旬報告(7月31日現在)
(海外)		米 FOMC(31日まで) 米 個人支出(6月) 米 中通商協議(上海、31日まで)	米 ハウエルFRB議長、会見 米 ADP雇用統計(7月) 米 雇用コスト指数(4~6月) 欧 ユーロ圏GDP(2Q) 欧 ユーロ圏CPI(7月)	英 英中銀、政策金利発表 米 ISM製造業景況指数(7月)	米 雇用統計(7月) 米 シカゴ大学消費者マインド指数(7月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.060 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初402兆4,400億円から始まった。その後は国債買入や国庫短期証券買入を主に増加し、週末には404兆6,200億円となった。無担保コールON物は、ビッドサイドの資金調達ニーズの減退により軟調な地合いとなった。同加重平均金利は週初、△0.063%から始まり、その後は徐々に低下していき、週末には△0.073%となった。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.050~△0.040%の水準で出合が見られた。政府は23日、7月の月例経済報告で、国内景気について「緩やかに回復している」との判断を維持した。内需が底堅い自動車など一部の製造業で生産が増えたため、総括判断では、6月までの「輸出や生産の弱さが続いている」との表現を「輸出を中心に弱さが続いている」に修正した。

来週の主な予定は、国内では金融政策決定会合(29・30日)や展望レポートの公表(30日)などがある。海外ではFOMC(30・31日)や米中通商協議(30・31日)など

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約7,400億円で、週間償還額(3,000億円)に対し倍増となった。発行市場は、商社や薬品等複数の業態からの大型案件があったことや、電力会社の月末日の前倒し案件が加わり、活況となった。先週末の市場残高(21兆1,254億円)に対し、25日時点では21兆4,500億円程度となった模様。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での横ばい圏内の出合いであった。26日に、CP等買入入れオペが500億増額され、2,500億円でオフアーされた。按分レート△0.001%・平均落札レート0.003%、と、前回比上昇した(前回:按分△0.003%・平均△0.002%)。

来週の償還総額(7/29~8/2)は、月末日の大量償還(約1兆円)を含め1兆2,800億円程度となっている。月末・月初スタートで幅広い企業からの発行が見込まれ、今週に引き続き活況が予想される。発行期間としては、中間期末までの短いターム物の発行が中心となるだろう。発行レートは、投資家は0%以上であれば運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いとなろう。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場では3M物が弱含む動きとなった。26日の3M847回債の入札結果は最高落札利回り▲0.1202%(前回債▲0.1303%)、平均落札利回り▲0.1271%(同▲0.1403%)、応札倍率3.26倍(同2.93倍)となり、前回債より上昇した。セカンダリー市場では3M物は▲0.13%台で取引され、26日の入札以降は▲0.125%まで出合いが見られた。6Mは▲0.26%でも取引、1Y物は▲0.20%程度で取引が見られた。来週は、8月2日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.085%~△0.095%で始まり、以降週央にかけて△0.08%台で推移した。短国3Mの発行日である29日受け渡しでは△0.08%台から出合いが始まり、後場△0.07%台まで上昇した。SC取引では10年355回債のbidが多く、国債買入オペがオフアーされた23日受け渡しは△0.1%台前半、以降△0.09%台~△0.1%台前半で取引された。その他2年400・401・402回債、5年137・138・139・140回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354回債、20年164・166・167・168・169回債、30年59・62・63回債、40年9・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。